

「要旨」 令和2年 夏期における水難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課より抜粋

令和2年夏期(7~8月の2か月間)における水難

- ✓ 発生件数 **504件** (前年対比 +43件)
- ✓ 水難者 **616人** (前年対比 +22人)
- ✓ うち死者・行方不明者 262人 (前年対比 +23人)

- 海: 114人 <-7>
- 河川: 112人 <+20>
- 湖沼池: 11人 <+1>
- 用水路: 20人 <+11>
- プール: 2人 <-3> / その他: 3人 <+1>



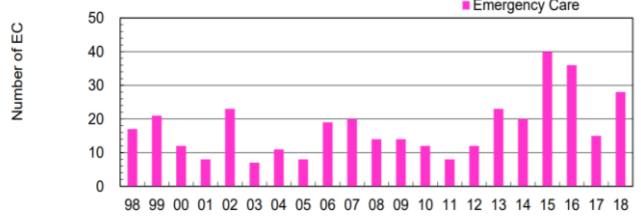
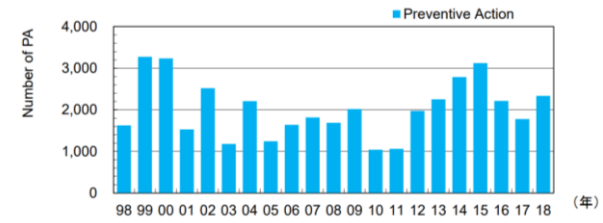
このうち、中学生以下の子どもは

- ✓ 発生件数 **※60件** ※子どもの水難発生件数は、水難者が子どものみの場合。
- ✓ 水難者 **101人** うち死者・行方不明者 **16人** (前年対比 +2人)

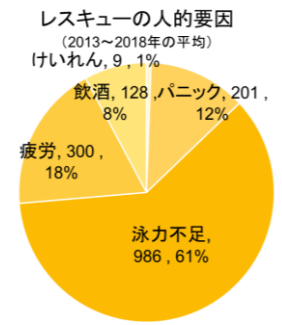
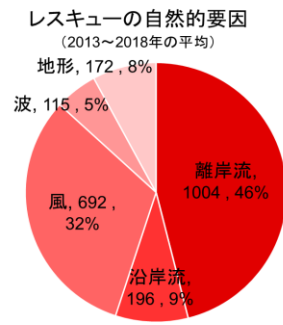
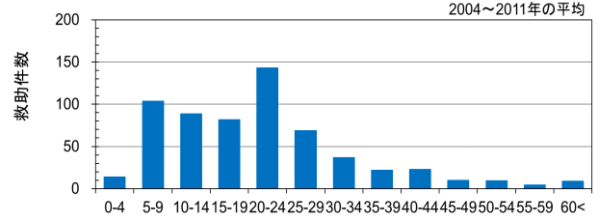
過去5年間の夏期における水難発生状況をみると、発生件数、水難者数とも平成28年を境に減少していたが、**今年は増加に転じた。**

→**来夏に向けた『溺水事故予防の具体的な発信、WS教育が必要』**

ライフセーバーによる救助の実態 <<年間2,000~3,000人>>



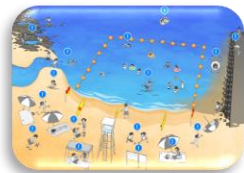
海水浴場における年齢別の救助人数によると、20歳から24歳が一番多い。**小学生の年齢期から非常に増える傾向がある。**水に慣れてきた頃からは、大人による十分な注意が必要。



「知識」の理解を基に「技能」を身に付け、「技能」を身に付けることで一層のその「理解」を深める




命を守り合うための学び ~自助、共助へ~



ICTの活用によって「主体的・対話的な深い学び」を目指すアクティブ・ラーニングも可能

日本は海岸線の長さが世界で6番目に長い、海に囲まれた国です。そのため、泳げなければ命を落としてしまうような危機に直面する可能性があります。このように“**サバイバル**”という視点で考えたとき、水泳の技能は**すべての子どもたちが習得すべき能力**の一つであるといえると思います。それを保障するのは、**公教育の役割**ではないでしょうか。

スポーツ庁長官 鈴木大地 (体育科教育2017 7月号より一部抜粋)

これまでは高学年の**指導内容が泳法（泳力向上）に絞られるという課題**がありました。そこで、「安全確保につながる運動」を加えることによって、続けて長く浮いていることも身に付けるべき能力の一つだと捉えることができるようにしました。**導入の背景には、国内外での水難事故**もあります。水難事故に遭った際には、呼吸を確保し浮いていることが**命をつなぐために大変重要**であるということを、**小学校のうちから知っておく**必要があります。

スポーツ庁政策課 教科調査官 高田彬成 (体育科教育2017 7月号より一部抜粋)

「**浮き身**」や「**着衣泳**」は、**水辺の危険に遭遇した後の対処の体験**であり、大切なことは**事故を回避できる知恵と、水辺環境を想定した正しい知識“そなえ”**と行動を身に付けることである

～事故を未然に防ぐ、
本当の未然は「教育」にある～



「水泳」授業における課題

1、現在の課題

- ①天候に左右されやすいことから授業計画を立てづらい。入水できたときも自由遊びの時間をとることも
- ②泳法指導が主となっている。また児童生徒における水泳技能の二極化や安全対策もあり、水泳授業は負担が重い
- ③「水泳の事故防止に関する心得」や、「健康・安全を確保すること」については、明確な指導書はなく、取扱いも薄い

※「JLA BLS、WS」教員研修、ならびに東京都中学校高等学校私立協会研修におけるヒアリングより

2、これからの「学び」のビジョン（学習指導要領改訂と今後の体育科教育において求められる視点）

- ①「活動あって学びなし」の状況や「教え込み」にならないバランスが重要
- ②ICT(情報通信技術)の活用によって「主体的・対話的な深い学び」を目指すアクティブ・ラーニングが期待されている
- ③「知識」の理解を基に運動の「技能」を身に付け、運動の「技能」を身に付けることで一層のその「理解」を深める

※平成29年版 学習指導要領改訂のポイント 小学校・中学校 体育・保健体育(明治図書)より、抜粋



主体的、対話的学びを深める 水辺の安全ICT教材の始動



2020年10月23日、自見はなこ議員のご紹介により、文部科学副大臣 田野瀬太道議員と面会の機会を賜り、同月30日付けで文部科学省のホームページにある『[子ども学び応援サイト](#)』～学習支援コンテンツポータルサイト～ 小学校「体育」、中学校「保健体育」の中で、e-Lifesavingを紹介いただきました。

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index_0001.htm

ページ内>学校の教科等を学ぶ から >小学校>体育 または >中学校>保健体育

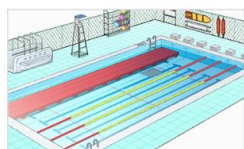
※写真：中央が田野瀬太道副大臣。左から吉川優子代表理事（一般社団法人吉川慎之介記念基金），松本貴行（JLA副理事長），佐藤洋二郎（JLA事務局），自見はなこ議員

守ろう!いのち 学び合おう!水辺の安全

Swim & Survive



事前学習



プール編

海編

動画で考えよう!



海でのできごと

実せん動画集



助かる方法

助ける方法

クイズ!
水辺の安全って?



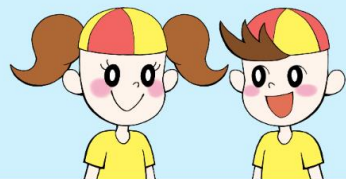
初級編

中級編



学校で!
家庭で!

活用ガイド



※9月30日時点 246,784 PV
29,833ユーザー

2020年4月 完成
助成：日本財団
制作協力：学研みらい



e-Lifesaving



JLAサイト
トップページからリンクしています
<https://jla-lifesaving.or.jp/>



完全無料!
学びのWEBサイト



<https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/>

【バトちゃん】

ライフセーバーのぼうしから^う生まれた、^{みずべ}水辺のパト
ールをしてくれる^{まも} ^{がみ}守り神。
うれしいときや^{たの}楽しいときは、^{たか}高くジャンプをして^ま気
もち^{つた}を伝えるよ。



【そらちゃん】

泳ぐことが得意な^{およ} ^{とくい}女の子だよ。夏の海と空が大好き!
「わたしは泳ぐのが大好き。でも、^{みずべ}水辺のこわさも^し知
っているから、^{みずべ}水辺に行くときは^い必ず^{かなら}ライフジャケットや^くうき具をもっていくよ。」



【うみくん】

海や川が大好きな、^{うみ} ^{かわ} ^{だいす}がんばりやさんの^{おとこ} ^こ男の子だよ。
でも、^{にがて}クラゲとフナムシは苦手なんだ。
「^{まいにち} ^{うみ}ぼくは毎日、海のごみひろいをしているよ。きれ
^{うみ} ^{まも}いな海を守るんだ!」



みんなと一緒に学んでいくよ!

1、事前学習

プール授業の前のガイダンスとして利用できる！



プール活動の事前指導として活用。
事故を未然に防ぐことへの思考を育てる。

★新学習指導要領

小「水泳運動の心得」
中「健康、安全の心得」

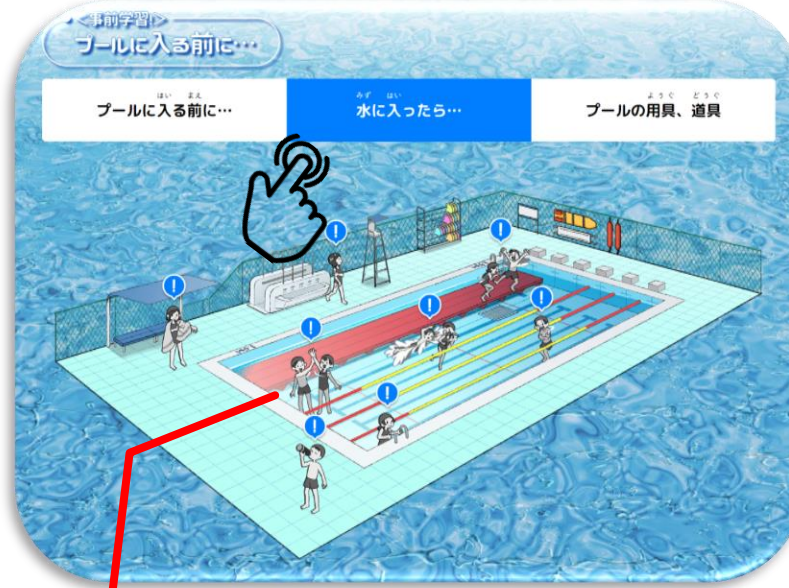
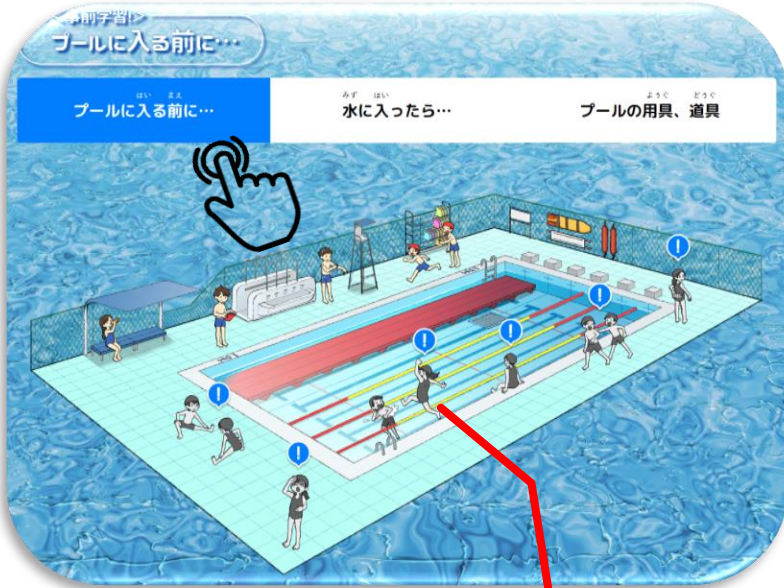
プール編

～ライフセーバーが監視救助活動をする中で、起こりやすい事象を取りまとめたもの～

プールに入る前に…

水に入ったら…

プールの用具、道具



✕

プールサイドからのプールへのジャンプは、人が下にいたときに重大な事故につながるため、絶対にしてはいけません。

全10項目

✕

水中での活動を行うときは「バディ」が大切です。おたがいを守り合うのがバディの役目です。

安全に活動するために

全8項目

✕

水中から出られなくなるおそれがあるので、遊具やフロア台の下にもぐってはいけません。

全9項目

1、事前学習

海 編



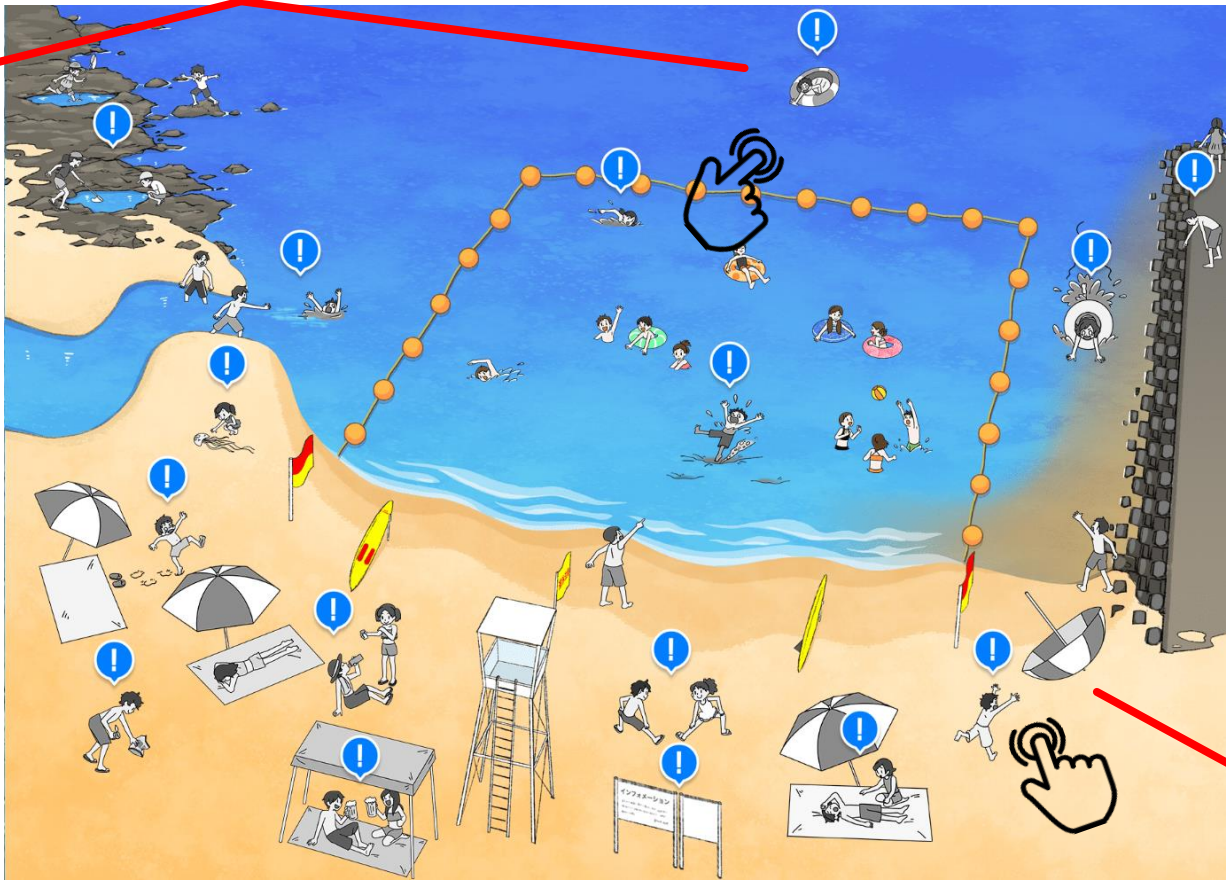
バトちゃん

～海水浴用場における安全の心構えを身に付けよう～

起こり得るリスクから、実践的な回避方法を学び、海岸利用における安全の自立を目指すことがねらい

※学習指導要領「水辺活動」

大きなうき具は風の抵抗を受けやすいので、うき具を使う際は風に流されないように注意しましょう。もし、陸からの風によって、うき具だけが沖に流されてしまっても、無理に追わないようにしましょう。追っている途中で体力がなくなっておぼれたら大変です。



風が強い日にはパラソルやテントが飛ばされる恐れがあり、周りの人に当たってしまったら大変危険です。パラソルは風上にやや倒し、砂の中に深くさしこんだら、重しを結んで飛ばされないようにしましょう。



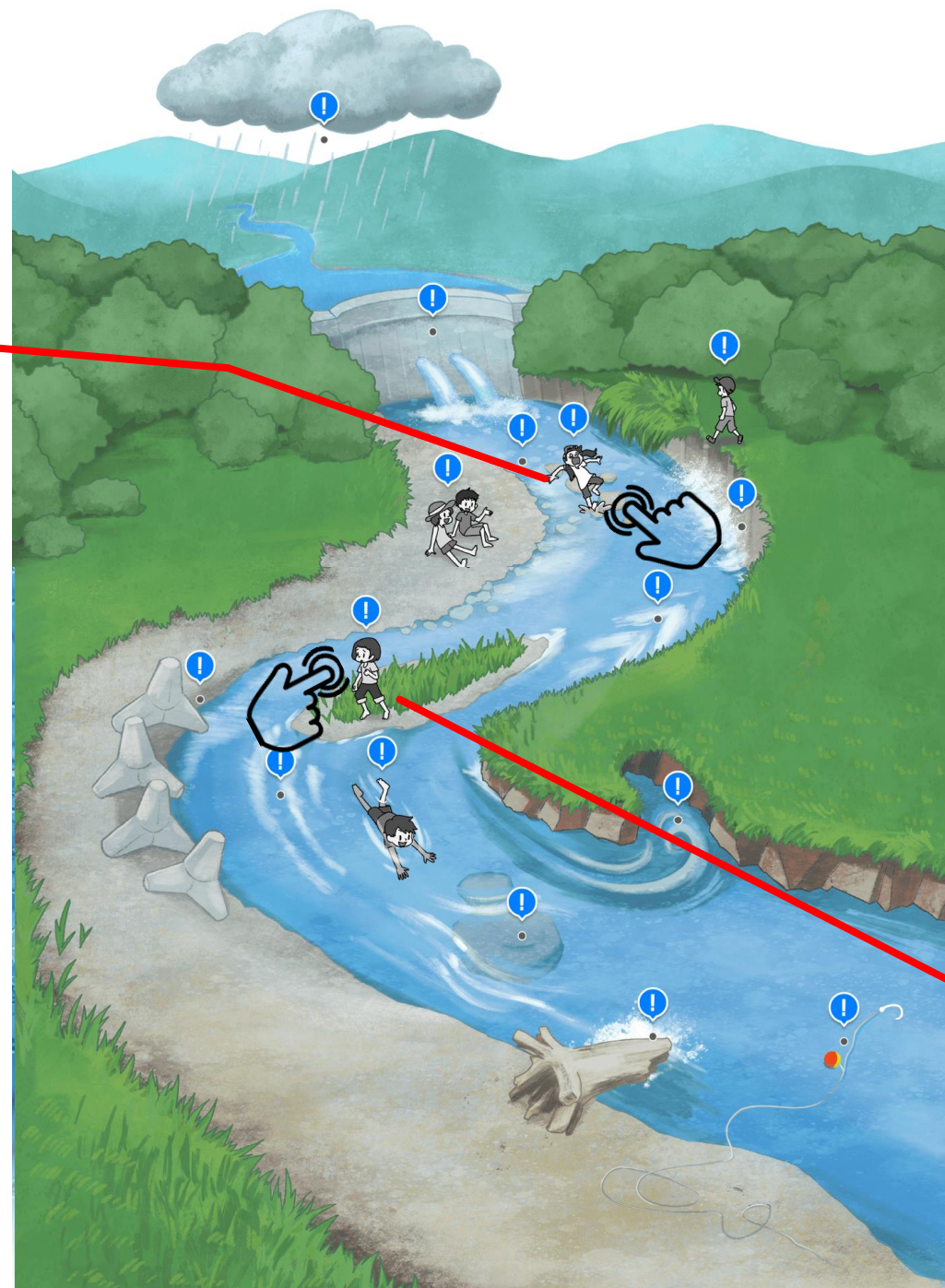
想定（設定）されているリスクは全16項目

～ライフセーバーが監視救助活動をする中で、起こりやすい事象を取りまとめたもの～

1、事前学習

川 編

～川における安全の心構えを身に付けよう～



起こり得るリスクから、実践的な回避方法を学び、海岸利用における安全の自立を目指すことがねらい

※学習指導要領「水辺活動」

かわぞこ いわ しょうがいぶつ おおき なが はや せ
 川底に岩などの障害物が多くある流れの速い瀬
 は、流れの中で立とうとしたり、川底に足を向けた
 りすると、いわ ま あし きけんせい
 ります。特に急流では、フットエンタラップメント
 あし いし あいだ かわ つよ ちから
 (足が石の間などにはさまれたりして、川の強い力
 お すい きけん
 に押されて水ぼつしてしまうこと)の危険もあります。

フットエンタラップメント

なかす あめ かわ みず ふ すい
 中州は、雨などにより川の水が増えると水ぼつする
 か のうせい かわざし
 可能性があり、川岸にもどれなくなってしまうこと
 ちゆうい
 もあるので注意しましょう。



想定（設定）されているリスクは全16項目
 ～制作協力：公益財団法人 河川財団～

2、動画で考えよう ～あらすじ～

「海でのできごと」



まずは6分19秒
の動画を通して
見てみよう！



ある日、小学生達が放課後に桟橋で釣りを楽しんでいました。桟橋の奥には大学生2人がいます。今日はなかなか釣れません。そこへ女の子が遅れて様子を見にやってきました。



まずは全体を通して見てみよう！

ある夏の日の、海でのできごと。
どんな危険があるか、考えながら見てみよう。



はやと君は桟橋から魚の影を追って網で捕まえようとします。夢中になって追いかけるあまり海へ落ちてしまいます。



桟橋では、はやと君を助けようと、学校で習った“ペットボトル救助”等を試みますが、うまくいきません。



桟橋にいた大学生の正しい“ペットボトル救助”にはやと君は助けられませんが、今度はもう一人のライフジャケットを着た大学生が…



女の子は走ってライフセーバーに伝えに行きます。2人のライフセーバーは、はやと君と大学生の救助に向かいます。

2、動画で考えよう

～設問と解説～

「海でのできごと」

次に2つ目の動画を見てみよう。
 同じ動画の中に11の設問があるよ。
 考えたり、意見を出し合ったりした
 後は、解説を見て学びを深めよう！



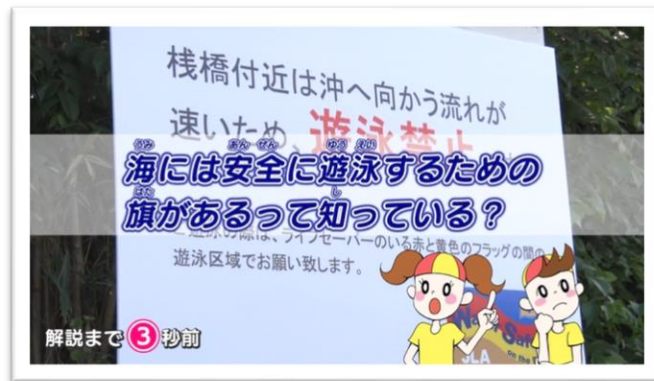
バトちゃん



まずは全体を通して見てみよう！
 ある夏の日の、海でのできごと。
 どんな危険があるか、考えながら見てみよう。



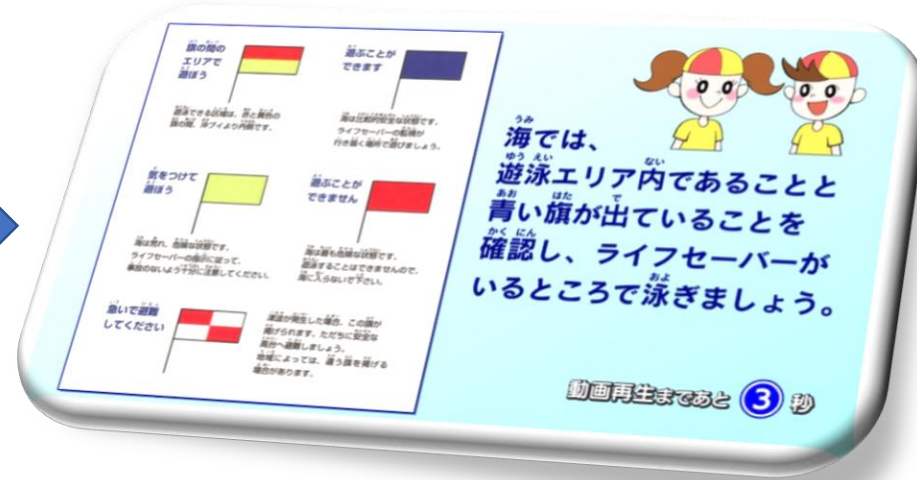
次に動画を見ながら考えよう！
 動画の中の大切なシーンをチェック。
 見たあとは、下の「学習のポイント」も確認しよう。



解説まで 3 秒前



解説まで 4 秒前



動画再生まであと 3 秒



※動画を流していると自動で設問がでてきます。
 適時、停止、再生ボタンを押しながらご利用下さい。



「話し合ってみよう」

話し合ってみよう

動画から学んだことを参考にして、話し合いで学習を深めよう。

海水浴に行くとき、安全に楽しく過ごすためには、どのような事前準備が必要でしょうか。

海で遊ぶとき、どのようなことに注意しながら活動することがのぞましいでしょうか。

海や川などで起きる水の事故を減らすための標語を、考えてみましょう。



制作協力：学研ブ
編集協力：東映

「海でのできごと」を見て学んだことを参考にして、話し合いを試みよう。

海で遊ぶ上での“そなえ”となる実践的な知識を身に付けるためには、想像することや他の人の経験談を聴くことも大切だよ！

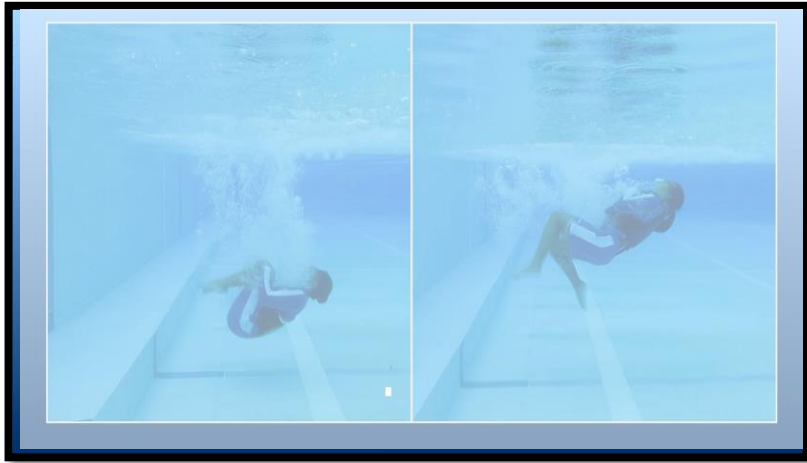


バトちゃん



3、実せん動画集

助かる & 助けるテクニック



助かる方法			助ける方法		
					
浮く① 基本姿勢	浮く② 応用姿勢	浮く③ 落水からの浮き身	浮く④ 長く浮いていられる方法	浮く⑤ 長く浮いていられる方法	ライフジャケットの正しい着方
					
ライフジャケットの有無による落水のちがひ	水中でのライフジャケットの着方	体力の消費を節ぐ安全な泳ぎ方 ライフセービングバックストローク	立ち泳ぎ スカーリング/巻き足	キックボードクルージング スカーリングを上達させるために	ボート転ぶく時の救助を待つ方法
					
複数人で救助を待つ方法① ハドルポジション	複数人で救助を待つ方法② 波や風に背を向ける	レスキューチューブを渡されたら			

水辺での安全テクニックや溺れないための方法を動画を通じて理解を深める。

★新学習指導要領

小「安全確保につながる運動」
中「水辺の事故防止に関する心得」

「助かるテクニック」では、15点の動画が解説付きで見れるよ！

「Swim&Survive」の具体的な方法をまずは頭でイメージすることが大切なんだ。

水の中の様子もわかるから、是非実技で挑戦してみてね！



助かる & 助けるテクニック

水辺での安全テクニックや溺れないための方法を動画を通じて理解を深める。

★新学習指導要領
小「安全確保につながる運動」
中「水辺の事故防止に関する心得」



助かる方法		助ける方法	
	水に入らないで救助する方法 声をかける (トーク)		水に入らないで救助する方法 物を差し出す (リーチ)
	水に入らないで救助する方法 物を投げ入れる (スロー)		水に入らないで救助する方法 ロープを投げ入れる
	安全な水からの上げ方① 補助を必要とする場合 (スターアップ・リフト)		安全な水からの上げ方② 補助を必要とする場合 (アンダーアーム・リフト)



「助けるテクニック」では、6点の動画が解説付きで見れるよ！

万が一、溺れている人を発見した時、水の中に入らないで助けることが鉄則。ライフセーバーの救助技術の中から、みんなにも知っておいてもらいたいことを選んで紹介しているんだ。



4、クイズ！水辺の安全って？

10問正解すると・・・

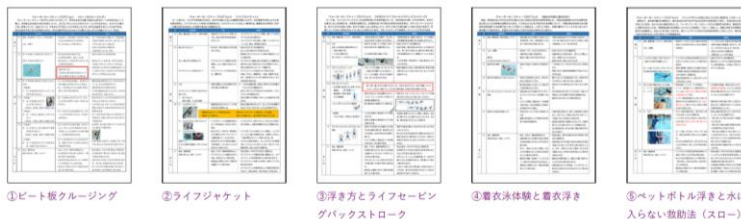


【動画集】
このコンテンツにある動画のすべてに加え、「安全なプール活動」が追加されています。動画集を利用することで、復習がスムーズに行えます。

【ワークシート】
主に「事前学習 プールに入る前に…」や「動画で考えよう! 海でのできごと」で活用できるワークシートがPDFで引き出せるようになっています。子ども達が理解しながら書いていくことで、学びを深め、記録(記憶)として残すことができます。

指導案

ウォーターセーフティプログラム



【指導案】
指導される方がプログラムを構築する上で参考となるウォーターセーフティの指導案がPDFで引き出せるようになっています。主に小学校や中学校の水泳授業などで活用できます。

- ①ビート板クルージング
- ②ライフジャケット
- ③浮き方とライフセービングバックストローク
- ④着衣泳体験と着衣浮き
- ⑤ペットボトル浮きと水に入らない救助法(スロー)

ワークシート



資料集



【その他資料】
ライフセービングに関連する資料、資格のことについてやテキスト、動画などがラインナップしてあります。子ども達の理解をさらに深めることができます。



親から子へ、子から孫へ、何世代も引き継がれてきた私たち日本人の海への想いが、近年、海難れという形で崩壊しかけています。海に行きたくないという気持ちも、海に抱く消極的なイメージも、子どもの頃の原体験が強く影響していると考えられます。海辺で怖い思いをした子どもたちが、海を好きになれるはずがありません。子どもの水難事故が毎年多発する中、子どもたちが安心して海を楽しむために、水辺の安全教育を浸透させることは、日本人の豊かな海への関わりを導くことでしよう。子どもの未来、海の未来を守るため、今後も日本ライフセービング協会の活動を応援して参ります。

公益財団法人 日本財団
常務理事 海野 光行

※JLA e-Lifesaving ~Swim&Survive~は子ども達への水辺の安全 ICT教育プログラムとして、日本財団 (https://www.nippon-foundation.or.jp/) の助成により開発されました。

<五十音順>



日本水泳連盟は、水泳の普及目標を「国民皆泳」と位置づけています。日本の国民全員が泳げるようになり、健康保持・増進を図るとともに、泳げないことで命を落としたり、溺れている人を助けられないことがないようにという、とても大きな目標です。泳げることは自分の命を守ること、そして他人の命を救うことに繋がっています。多くの子供たちが水辺の安全教育に触れ、正しい知識と技能を身に付けることは素晴らしいことです。日本から水難事故がなくなることを願っています。

公益財団法人日本水泳連盟
会長 青木 剛



私も公益社団法人日本トライアスロン連合では、全国の約37.5万人のトライアスロン愛好者のために各地で年間350近くの大会・事業を開催しています。1974年に誕生したトライアスロンはスイム・バイク・ランを続けて行う競技です。中でもスイムではライフセーバーの皆様のご協力をいただきながら、水の事故や怪我が発生しないよう安心安全な大会運営を心掛けていますが、様々な自然条件で行われる競技のため、各参加者が自分自身の体調と向き合い、心身共に万全の準備をした上でレースに参加することを願っています。それには、まず正しい知識を身に付けることが大事です。これからの若い選手や愛好者の皆さんが、泳ぐ際に知っておくべき事柄を本教材できちんと学んでいただくことを期待します。

公益社団法人日本トライアスロン連合
会長 岩城 光英



RAC (NPO法人川に学ぶ体験活動協議会) では長年に渡り、川で安全に且つ楽しく活動できるよう行政とも連携しながら川の指導者を育成してきました。それら全国約4000名の指導者が、それぞれの地域の川で活動を行っています。しかしながら、毎年、夏場になると悲しい水難事故のニュースが聞こえてきます。川で遊ぶ時に川の安全管理を知っていれば事故は防げたかもしれません。ライフジャケットの着用もその一つで、RACではその普及に努めています。また、川での安全管理ができる指導者の育成、各地域での水辺の安全講習などを展開して参ります。川は正しく安全に管理をすればとても素晴らしい学びのフィールドです。1人でも多くの人が川で楽しんで活動をしていただければと思っています。

NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会
代表理事 久住 時男



我が国の水泳教育は、泳げる技能に力点が置かれてきました。海外の水泳教育は、まずは溺れない技能に焦点をあて、事故防止の為にセルフサバイバル教育に力を注いでいます。今日、文科省「学習指導要領」では、自然との関わりを深める「水辺活動」への広がりを謳い、着衣泳等の自助安全を導入しています。一方、東日本大震災（大津波）や、近年の自然災害のエネルギーを鑑みれば、これまでの安全基準をはるかに超える備えは自明です。救急教育学を専門とする立場より、その生命倫理の根底は「生き抜く力」です。つまり危機本能の主体性です。本教材はその主体性を育むに相応しい理念と実践です。自助、共助、そして公助への展開・発展を願っています。

中央大学
教授 博士（救急救命学） 小峯 力



水泳は命を守ることができるスポーツです。日本では多くの学校にプールが整備され、水泳の授業は必ず受けることになっています。学校での水泳の授業を通して、全ての国民に泳ぎをマスターしてほしいと思っています。その上で、プールでの水泳だけでなく、海や川などの自然とのふれあいの中で、安全に楽しく泳いだり、遊んだりすることができるよう、水辺での事故を防止するための知識や技能を身に付けることが大変重要です。この教材を用いて、緊急時に行うべき行動などを学ぶことで水辺の安全確保が図られ、一人でも多くの子供たちの命を守ることにつながることを願っています。

スポーツ庁長官 鈴木 大地



河川財団では、子どもたちが伸び伸びと川に触れ合うことができる体験活動への支援や河川や水に関する河川教育の普及に取り組んでおります。私たちの身近にある川は、自然がいっぱいで大変魅力的な空間です。そして、遊びの場でもあり、学びの場でもあります。しかしながら、水辺のシーズンになると繰り返されるのが水難事故です。水に関わる子どもの事故の多くが川や湖で起こっています。この水難事故を未然に防ぐためには、川や水辺に潜む様々な危険性を知り、事前の準備と、活動時の安全管理を怠らないことが極めて重要です。川や水辺での活動をより安全で楽しいものとするために、保護者・団体・学校関係者など、より多くの方々に活用いただける教材や情報の提供に努めてまいります。

公益財団法人 河川財団
理事長 関 克己



「ライフジャケット」が、水辺の子どもたちを見守る時のアタリマエの選択肢の1つになることを願って、ひたすら発信を続けています。活動を続けてきて感じているのは、怖いのは「知らない」ということ。安全性を飛躍的に高める「ライフジャケット」のことや、水辺の安全について、みんなが学ぶことができれば、水辺の事故のほとんどは予防することができる…と信じています。守ることができる命があります。この素晴らしい教材が多くの学校や家庭で活用され、子どもたちにとって水辺が安全で楽しい場所になることを心から願っています。思いはただ1つ…子どもたちの命を守ること。

「子どもたちにライフジャケットを！」
代表 ライフジャケットサタ 森重 裕二



私の息子の慎之介は、幼稚園のお泊り保育で行われた水遊び中に、川の増水によって流され亡くなりました。私たちは、事故の教訓をいかすための活動を続けています。悲しい事故を防ぎ、子どもたちに豊かな経験をさせてあげるためには、予防についての正しい情報や知識を共有することが重要です。予防と安全を理解することは、命を守ること＝生きる力を身につけるための大切な学びであり、子どもの可能性を広げることでもあり、水辺には、楽しい体験や学びが沢山あります。大人も子どもと一緒に、水辺の活動を通じて、成長へのチャレンジを重ねてほしいと思います。水辺の事故ゼロをめざして。

日本ライフセービング協会の活動を応援します。

一般社団法人吉川慎之介記念基金
代表理事 吉川 優子



海やプールは、子供たちにとって最高の遊び場です。誰もが笑顔になれるこの水辺は、我々の生活の中でも身近にあるものです。しかしながらこの水辺では、残念ながら命を落としてしまうほどの事故につながることもあります。こういった事故を未然に防ぐために必要なことは、水辺の危険について知っておくことが重要であり、この知識を持った上で水辺でのさまざまな体験を踏まえて生きる力を身につけることが最も効果的になります。我々日本ライフセービング協会は、理念を共にする様々な団体様と共に、水辺の安全に関する教育を正しく広めると共に、水辺の事故ゼロをめざした活動を続けてまいります。

公益財団法人日本ライフセービング協会
理事長 入谷 拓哉

※水辺の尊さとその安全についての願いをメッセージとしてお寄せいただきました。

指導される大人の方々の心構えやモチベーションとして、大変学び深いものです。今後さらにその輪を広げていきたいと考えております。

今後の展開と課題：子供たちへの水辺の安全教育プログラムの推進（ICT教材）

1、神奈川県との包括協定（配布、告知）

✓ 神奈川県小学校 855校 神奈川県中学校 410校

2、学校教育での展開を目指して

- ✓ 文部科学省、スポーツ庁HP等での周知（47都道府県教育委員会へ）
- ✓ e-Lifesavingのコンテンツ拡充（離岸流、心肺蘇生、応急手当、防災）
横断的な学びの促進、公的救助機関連携による制作
- ✓ 副読本、指導書へQRコード掲載（2021年度以降へ向けて調整中）
「学研」小学校シェア25% 4973校／19892校中
「学研」中学校シェア40% 4108校／10270校中

3、広告、ネット配信、オンライン授業

✓ 各種メディア発信、オンラインセミナーへの対応も

4、スイミングクラブ連携促進（2020年8月実施予定）

✓ アクラブ（堀之内、藤沢、調布、八王子、稲城）WSイベント

5、JLAジュニア指導へ（50クラブ／136クラブ中）

